

広島市における統合保育の実態調査(4) — 保母経験及び障害児保育経験の必要性に関する検討 —

若松 昭彦・船津 守久
(1997年11月21日受理)

An Investigation of Realities of Nursery Schools Practicing Integration in Hiroshima City (4):

— A Consideration on the Necessary Conditions of Ordinary Nursing Experience and Nursing Experience with Disabled Children —

Akihiko WAKAMATSU and Morihisa FUNATSU

Abstract. 96 nursery school teachers and 48 temporary nursery teachers working in the nursery schools admitting admission of disabled children in Hiroshima city were investigated by questionnaires. In this study, We aimed at examine two hypotheses. Firstly some nursing experience with disabled children was a necessary condition for nursery school teachers, secondly some ordinary nursing experience was an essential condition for temporary nursery school teachers.

The main results were as follows:

1. The first hypothesis was supported, in a word, some nursing experience with disabled children is necessary for nursery school teachers in case of making intimate relation with disabled children, their parents, and temporary nursery teachers.
2. The temporary nursery teachers having affluent experience tried to consider the heart of disabled children and their self-reliance.
3. The second hypothesis wasn't supported completely, that why, there were not sufficient subjects in this study. So we have to study about this hypothesis in the future studies.

はじめに

広島市では、保育所の障害児保育担当保母を対象とした研修会を平成3年度より行っている。そこで、筆者らは平成6～8年度の各研修会に参加した保母を対象として、園が受け入れている子どもの様子、子どもと関わる上での配慮点や悩みなどに関する一連の質問紙調査を実施した(若松・船津, 1995; 若松・船津, 1997a, 1997b)。その結果、クラス担任の保母にとっての障害児保育経験の必要性が示唆された。一方、障害を持つ子どもを一日4時間担当する加配保母については、障害児保育以外の保育経験(以下、保母経験と記す。)と障害児保育経験双方の重要性が推測された。平成9年度の調査結果に基づき、保育経験年数を統制しつつ、この仮説に関して引き続き検討すること

が本研究の目的である。

方 法

1. 調査対象・方法

平成9年度は、障害児保育経験1年未満のクラス担任の保母(以下、担当保母と記す。)対象の「初級保母研修会」、経験1年以上の担当保母対象の「中級保母研修会」、2年前より始められた「加配保母研修会」の3研修会が行われた。開催期日、参加人数は、各々6月17日、42名、同24日、54名、同10日、48名であった。調査対象は、これらの保母全員である。研修会講師の船津が調査用紙を配布し、自由記述による回答を依頼した後、その場で回収した。

2. 調査項目

今年度より、記入時の便も考慮し調査項目を次のように変更した。1) 記入者が日頃かかわっている統合保育の対象児について。2) その子どもとかかわる上で心がけていることや困っていること。3) その他、日頃の保育で心がけていることや悩んでいること。4) 保母経験年数と障害児保育経験年数。

3. データの分析

保育上の心がけ(以下、配慮点と記す。)と困っていること及び悩み(以下、悩みと記す。)を分析の対象とし、これまでの研究と同じカテゴリーを用いて分類した。

結果と考察

1. 担当保母の保育上の配慮点

表1は、担当保母の保育上の配慮点について分類した結果を示したものである。無効分2名を除いた担当保母計94名中、障害児保育経験1年以上の70名から延べ201、1年未満の24名から延べ53の記述が得られた。なお、保母経験年数、障害児保育経験年数、両者を合計した保母経験総年数は、前者が各々13.0、2.5、15.5年、後者が10.7、0.2、10.8年であり、保母経験年数には有意差は見られないが($t=1.20$, $df=29$, $p>0.1$)、障害児保育経験年数と保母経験総年数はどちらも前者が有意に長かった($t=14.13$, $df=76$, $p<0.01$; $t=2.37$, $df=30$, $p<0.05$)。表1より、「ふれあい」(記述数17:3、以下同様。), 「遊び」(15:1), 「他児との関係」(28:7), 「保護者」(12:2), 「保育者間」(10:2), 「その他」(27:5)では、人数比を考慮しても前者側の記述数が多い傾向にあり、逆に「言葉かけ」(16:9)では後者の記述が多い傾向が認められた。「保育者間」のみが、若松・船津(1997b)の結果と一致しており、さらに、その記述内容についても、同様に前者側の多くが加配保母との役割分担や連携に関するものであるのに対して、後者には加配保母と子どもの関係作りについての記述が見られていた。他のカテゴリーの大部分には、本研究で初めて両群の差が認められたが、前述のように保母経験年数には違いがないため、これらの結果は障害児保育経験の違いによるものであると考えられる。また、

「言葉かけ」は、特に障害児保育経験のない保母もよく行うかわりであると言えよう。

以上のことから、担当保母が障害を持つ子どもや保護者とのコミュニケーションを深めたり、加配保母と協力したりしていくためには、ある程度の障害児保育経験が必要なが示された。

2. 担当保母の保育上の悩み

担当保母の保育上の悩みに関しては、障害児保育経験1年以上の群が延べ77、1年未満の群が延べ34の悩みを述べていたが(表2), 「保育者間」(6:5)と「他児との関係」(15:7)で後者の記述が多い傾向が伺われたのみであった。「保育者間」の記述内容を見てみると、前者では、加配保母と話す時間がないという記述が3、加配保母の必要性に関する記述が2、連携のしにくさに関連する記述が1であるが、後者では各々0、3、2となっており、後者の方が加配保母の必要性や連携の難しさをより感じていると考えられる。また、前者に「他児との関係」についての悩みが相対的に少ないことも推測されるが、この結果はマージナルなものであろう。なお、これまでの結果と異なり、「子どもとの関わり等」での後者の記述は多くならなかった。この理由としては、調査項目の変更や前者の障害児保育経験の短さ、園内外での研修の成果などが推定される。

以上のように、部分的な結果ではあるが、前者側の担当保母は加配保母との連携を積極的にとろうとし、後者の保母は加配保母の必要性や保育者間の連携の難しさを感じていることから、担当保母にはある程度の障害児保育経験が必要なが示唆されよう。

3. 加配保母の保育上の配慮点

表3は、加配保母の保育上の配慮点について、加配保母を保母経験により2群に分けて、担当保母の場合と同じカテゴリーで分類したものである。両群に振り分ける人数の点から、便宜的ではあるが、保母経験3年を基準にした。無効分3名を除いた45名中、保母経験3年以上の34名から延べ90、3年未満の11名から延べ28の記述が得られた。保母経験年数、障害児保育経験年数、保母経験総年数は、前者が各々6.3、3.1、9.4年、後者が1.1、2.8、3.9年であり、障害児保育経験年数には

表1 平成9年度担当保母の保育上の配慮点

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
子どもの 気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・無理せず少しずつ部屋に入って遊べるように。0-4 ・興味ない事は強制せず興味ある事を楽しめるよう。13-3 ・共感(顔き)を大切に。6-3 ・気持ちを汲み取る。16.5-2.5 ・活動に無理に入れず加配保母と別の遊びをする。19-2 ・設定保育には無理に入れず、加配保母と過ごす。12-2 ・気持ちを汲み取る。6-2 ・嫌がることを強制しない。3.8-1.2 ・遊びは無理強いせず、本児の好きな遊びをしている。16-1 ・嫌な時は入室の時機を待つ。出たい時は一緒に出る。7-1 ・快の気持ちで過ごせるよう。6-1 ・思いが伝わらず、時々爆発するので、試行錯誤しながらも原因を明らかにしようとしている。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からしよう、他児を真似しようとする気持ちを大切にしている。2.6-0.4 ・飛び出しても、すぐ部屋に入れない。21-0 ・気持ちを受けとめながら、安定した気持ちで過ごせるようにする。9-0 ・攻撃の際には、気持ちを受け止めながらも叱る。4-0 ・コミュニケーションがとれない時、本児の気持ちを考える。3-0
観察	<ul style="list-style-type: none"> ・体調の変化を見逃さない。16-6 ・排泄のサインをとらえようとする。12-3 ・かかわった後の子どもの表情や行動をよく見る。21-2 ・本児のペースを出来るだけ理解する。12-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・午睡中の観察。4-0.5
ふれあい	<ul style="list-style-type: none"> ・一対一でスキンシップ。9-5 ・接触をしっかり持つ。16-4 ・担任、加配保母との関係を作る。12-4 ・なるべく一対一の時間をとる。4-4 ・1対1の関係作り。20-3 ・信頼関係を作る。11-3 ・スキンシップ。8-3 ・挨拶、ふれあい、遊びなどで信頼関係。19-2 ・関係作り。18-2 ・加配保母に頼らず、出来るだけかかわり理解する。18-2 ・特定の保育者が信頼関係を築き色々な刺激を与える。13-2 ・ふれあい。16-1 ・視線を合わせる。15-1 ・優しくゆったりとかかわる。4-1 ・時間があれば個別に遊ぶ。4-1 ・言葉ないので、信頼関係を作っている。4-1 ・エコーリアでもやりとりを大切に。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日一回は個別対応。4.8-0.2 ・スキンシップ。21-0 ・個別対応を出来るだけ行う。4-0
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・安定できる遊びの場作り。9-5 ・興味ある遊びを見つけ、楽しんだり言葉も育つよう。14-4 ・好きな遊び以外のものにも誘う。16-3 ・好きな活動を取り入れたりするが、一部しか興味示さない。簡単な絵本を一緒に見れるように。13-3 ・楽しいと思える活動や遊びをする。11-3 ・筋力が弱いので体力作りを主にしていきたい。適した遊びを考えている。16.5-2.5 ・1才、2才と分け、発達に合ったクラスで遊ばせる。21-2 ・手遊び、指遊びを続けて取り入れる。18-2 ・本児の遊びが広がるように。18-2 ・自分のペースで遊びが楽しめ快適に生活出来るよう。9-2 ・触られるのを嫌がるので、くすぐり遊びをする。14.5-1.5 ・かわりを持ちつつ見守る。18-1 ・好きな遊びを見つけ、しっかり出来るように。18-1 ・個々に合った遊びへ誘う。16-1 ・自由に遊べるよう誰かつく。好きな歌や遊びを行う。6-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことをたくさん見つけていきたい。4.8-0.2
言葉かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が理解できない時は、個別にゆっくりかかわる。7-6 ・こだわりが強い時、分かりやすく伝える。9-5 ・ゆっくり話す。20-3 ・言葉でのイメージ持ちにくいので丁寧にかかわる。14-3 ・全体指示後、個別に分かりやすく指示。12-3 ・目を見て話す。8-3 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持てるように言葉かけ。5.75-0.25 ・押し入れから出てくるまで放っておき、その後間接的に言いたいことを伝える。4.75-0.25 ・喧まれた他児の気持ちを代弁しながらかかわっている。4.8-0.2 ・他児に話した後、個別にゆっくり話す。28-0

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
言葉かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物を提示したり、その都度動きかける。8-3 ・ 目を見てゆっくり話す。6-3 ・ コミュニケーションの仕方。16.5-2.5 ・ 言葉、表情、ジェスチャー、手話で接する。9-2 ・ 呼んでも来ないが声をかけ、少し待ってから誘う。8-2 ・ おとなしいので、他児と同じように声をかける。8-2 ・ 目線で対応。18-1 ・ 次の行動をはっきり伝える。7-1 ・ 常に声をかけ、視線を合わせる。6-1 ・ 発声に発声を返す。4-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双方が伸びていく言葉かけ、援助の仕方。26-0 ・ 何度も声かけする。21-0 ・ 見通し持ちやすい声かけ。20-0 ・ ほとんど加配保母と遊ぶことが多いので、しっかり挨拶するようにしている。16-0 ・ レベルに合わせた言葉かけ。4-0
ほめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来るようになった事をほめる。20-5 ・ 出来た時にはしっかりほめる。0-4 ・ その場でしっかりほめる。19-2 ・ 出来たことをほめる。3.8-1.2 ・ 叱るような状況になるべく作らず、食事の量を減らすなど、ほめる状況を多く作る。9-1 ・ 出来た事を大げさに喜び合う。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来ないなりの頑張りを知る。5.75-0.25 ・ 出来たことをほめる。4-0
メリハリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叩いたら「痛い」ことを知らせる。20-5 ・ 場面場面で言葉をかけながら、メリハリをはっきり。17-5 ・ 攻撃はいけないとはっきり伝える。これをしてから、あれをというけじめを少しずつ身につける。0-4 ・ 危険なことは強い口調で止める。20-3 ・ していい事と悪い事のけじめをつける。16-3 ・ 使った玩具などは、必ず一緒に片付ける。8-3 ・ 危険への嫉など他児と同じに。9-2 ・ していい事、悪い事のけじめをつける。20-1 ・ していい事と悪い事のけじめ。15-1 ・ 悪い時には何度でも注意する。9-1 ・ けじめをつけたい。3-1 ・ 集団内でのルール、善悪のけじめを教える。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いけない事はしっかりと伝えていく。1.7-0.5 ・ 危険な事は厳しく言う。してはいけない事は職員が一致して対処する。28-0 ・ 悪い事は悪いと教える。0-0
笑顔		
教育的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉で要求出来るように。16-3 ・ 言葉が必要な質問の仕方。13-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの物から選ぶ。9-0
自立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧な援助から自分で出来るようにしていく。20-5 ・ 自分でしたがるので、見守る。9-5 ・ 困っている時や援助を求めた時にかかわる。14-4 ・ なるべく指示をせず、自分で考えて行動させる。先回りせず、ゆっくりと待つ。21-3 ・ 身辺自立指示だけで出来るように。17-3 ・ なるべく自分でさせる。16-3 ・ 出来る事は見守る。15-3 ・ 自分で出来る事を多くする。18-2 ・ 自分の事は自分で出来るように。18-2 ・ 自分でやろうという気持ちを大切に、遊びへの入り方を援助。13-2 ・ 身辺面出来るだけ自分でできるように。13-2 ・ 出来ることは見守る、声かけでさせる。12-2 ・ 生活力が身につくように。10-2 ・ 見守りながらも、いつもそばにいないように。9-2 ・ 出来るだけ自分でできるように。8-2 ・ 出来ることは時間がかかっても見守る。20-1 ・ 身につけたい事は待ったりしながらも自分でする。18-1 ・ なるべく自分でさせる。18-1 ・ 身辺面は出来るだけ見守る。4-1 ・ 自分で考えて行動出来るようになって欲しい。4-1 ・ 子ども主体で、保母は縁の下のような役割を果たしていきたい。3-1 ・ 身辺面は自分で行う。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来るだけ行動を待つ。1.7-0.5 ・ 生活習慣の自立。21.75-0.25 ・ 自分で出来る事は自分です。5.75-0.25 ・ 待つ。2.75-0.25 ・ 見通しが持てるように。4.8-0.2 ・ 生活面自分で出来るように声をかけ見守る。20-0 ・ 先回りしないように行動を見守る。9-0

広島市における統合保育の実態調査(4)

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
保育	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを整えていく。17-5 ・子どもだけでなく、自分も楽しい保育をしたい。12-4 ・保育者自身がゆとりを持って接するようにしている。0-4 ・年間計画を立て、週のねらい、日誌をつける。障害に対する手だてを考え、実践している。17-3 ・以前と生活が大きく変化しないように。17-3 ・できるだけ子どもにとって園が楽しくなるように。15-3 ・生活パターンをくずさないように。12-3 ・いろいろな経験を繰り返しさせる。18-2 ・他児と同じ経験を短時間させ、あとは自由に。18-2 ・散歩を増やす、全身運動。13-2 ・世界を広げる。同じ事の反復。13-2 ・身辺自立繰り返し指し導。9-2 ・いろいろな刺激、経験が出来るように。6-2 ・生活面、細かい指導や励まし。18-1 ・集団に入るのを嫌がると言われていたので、お集りのような形態をとらないようにする。6-1 ・周りと同じものを無理には作らないようにしている。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい体験。5.75-0.25 ・嫌がらずに登園できるように。2.75-0.25 ・手を添えて、毎日根気よく繰り返す。21-0 ・本児に合った絵本を読む。20-0 ・登園が楽しいような援助。3-0
他児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・他児とのかかわりを大切に。16-6 ・他児とのかかわり、その場に応じた援助。9-5 ・中に入れる活動があれば、一緒に加わって楽しむ。16-4 ・他児に「貸して」と言う、順番を待つ。14-4 ・時々他児の輪と一緒にいる。20-3 ・グループを作り、仲間意識が育つように。17-3 ・一緒に出来るような事はするように働きかけてみる。15-3 ・保育者がパイプ役になれるよう試行錯誤している。14-3 ・手伝い、ゲーム、積み木、誘われてトイレ等他児とのかかわりが持てるよう。11-3 ・他児の働きかけで次の行動に移れるよう。16.5-2.5 ・本児から他児へのかかわり。16.5-2.5 ・他児とのかかわりが出来るような働きかけ。21-2 ・本児のことを時々話し、優しい気持ちを持たせる。18-2 ・他児とのふれあいの中で、お互いが認め合い仲間として共に伸びていくように。17-2 ・他児と同じ経験をしたり、待つ場面を大切にしている。待ち時間が長過ぎないように、兼ね合いを見計らう。13-2 ・年中組にいますので、就学に向けて年長児とのかかわりの場を増やす方法を検討している。13-2 ・他児との仲立ちをする。9-2 ・他児も障害への配慮以外は、ケンカやふれあいを素直に持ってほしい。9-2 ・仲間遊びの援助。6-2 ・手伝おうとする他児の気持ちも大事にしながら、待つてあげるのも必要な事を知らせる。18-1 ・他児と積極的にかかわれるように。18-1 ・当番活動などで他児と自然に関われるように。18-1 ・ある程度皆に待ってもらい活動を始める。18-1 ・クラスに自然に入れるように心掛けているが難しい。4-1 ・他児と一緒に時は、なるべく見守る。4-1 ・いじめられた子どもに「やめて」と一緒にやる、いじめた時は強く叱る。3-1 ・他児との遊びを見守る。3-1 ・「教えてあげて」等子ども同士でかかわる場を作る。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・加配保母との一対一ではなく、皆と一緒に生活するように。2.7-0.3 ・思いが通じない時を見逃さず、代わりに伝えられるように。2.7-0.3 ・他児とのかかわりで援助を求める時には代弁している。4.75-0.25 ・午後は出来るだけ遊びに参加するようにかかわっている。4.75-0.25 ・クラス内で本児の存在を皆が認めていけるように心掛けている。2.75-0.25 ・他児といえる楽しさや嘔むと悲しそうに泣くこと等を感じてほしい。4.8-0.2 ・なるべく子ども同士の中に入れるように。3-0
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・体調についての保護者との連携。16-6 ・考えの違いなど保護者への対応を他児以上に配慮。16-6 ・対応についての話し合い、療育機関への相談。14-4 ・細かく連絡をとる。4-4 ・園での状態を自然に分かってもらえるようにする。0-4 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連絡。4-0.5 ・一日の出来事を保護者に知らせる。2.75-0.25

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・通学について保護者と具体的に話している。17:3 ・連絡ノートを交換し親子共々信頼関係が深まるよう。8:3 ・仲良くなる努力。話をよく聞き、園の様子を話す。21:2 ・良い所を認め、そこを伸ばすようにと励ましている。6:2 ・規則正しい生活、清潔、放任せず危ない時は制止するなど、保護者とのコミュニケーションをとる。20:1 ・1才児、寝るのが遅く午前中意欲のない子どもが数名。保護者に良くなった点を細かく連絡。16:1 ・一日の様子を保護者に伝える。7:1 	
保育者間	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度本児の動き行為を見て、加配保母と話し合って試行錯誤している。20:3 ・加配保母が母親的、担任が父親的役割。17:3 ・加配保母との連携。16:5-2:5 ・加配保母等との連携、日々の様子を伝え合う。21:2 ・担任は見守り「これは」という時前面に出る、加配保母は援助をする。17:2 ・保育者同士での情報交換や話し合い。12:2 ・加配保母に世話を任せている。午後からは要求すればかわり、しない時は見守る。2:4-1 ・加配保母と考えを共にし、一貫したかわり。18:1 ・職員全体で同じ態度で注意などする。18:1 ・加配保母と話し合う。4:1 	<ul style="list-style-type: none"> ・加配保母との一对一の関わりを大切に。2:75-0:25 ・本児が楽しめるようにかかわりながら、常に話し合いをする。4:8-0:2
園	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で話し合いを持ち、子どもを育てていきたい。12:4 ・園全体が本児を気にかけている。13:3 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面への配慮。16:6 ・一人一人の発達に合わせた援助の仕方。9:5 ・パニックの時は落ち着いてから接する。9:5 ・手話の歌や身振りを交えた歌など行い、出来るだけ楽しい時を過ごせるように。19:5-4:5 ・自分で選んだ物は食べる、食べられたらほめる。14:4 ・運動面での体調に配慮。14:4 ・興奮した時には落ち着いてから話す。4:4 ・健康管理。無理のない生活を送るように。11:7-3:3 ・段差等が不安定なので、ころんだりしないように。21:3 ・本児に好意を持ち、楽しく接していく。20:3 ・体温調節がうまく出来ないので健康面に配慮。18:3 ・常に視野の中に入れておく。16:3 ・皆と同じ生活ペースで過ごせるように。15:3 ・他児と同じような見方、かわり方。13:3 ・体が大きいので、他児への乱暴に気をつけている。13:3 ・クラスの子どもが一人一人の違いを認められるように。特別扱いしない。21:2 ・子どものペース、発達段階、フィーリングなどに合っているか、楽しんでいるか。19:2 ・加配保母と給食の手伝いをする。12:2 ・障害への配慮以外は、他児と変わらない態度でいたい。9:2 ・子どもの可能性を信じる。6:2 ・他児と同じように接している。24:1 ・他児と一緒にの保育。18:1 ・生活面少し早めに取り組む。18:1 ・一人一人の段階を受けとめ、個々に合わせた対応。9:1 ・本児も他児も出来るだけ同じように保育するように。7:1 ・排泄失敗多く、他児に見られないようにする。4:1 ・教育指導に同行し、話を聞く予定。3:1 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の把握、安全面、水分補給。4:0:5 ・園に慣れ他人の名前や顔を覚える。危険な場所や行為を教える。21:75-0:25 ・親指の力をつけるため布ブランコをしている。4:75-0:25 ・力関係で強い子ども、逆に目立たずに何気なく素敵な行動をしている子どもを大切に見る目。26:0 ・夏場、園では食べないので、保育時間を短くし、毎日登園してくれるように。本児が好んで登園することを重視。17:0
計	201	53

末尾の数字は、保母経験年数と障害児保育経験年数を示す。

表2 平成9年度担当保育士の保育上の悩み

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
保育のゆとり	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応の時間が作れない。14-4 ・本児にばかり手をかけられない。他児にとっても、かまってもらえないストレスがあるのではないか。4-4 ・全体で話し合い、子どもを見つめていく時間がない。9-2 ・2人担任だが、個別対応は難しい。16-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がなくて手伝ったり、せかしたりしている。1.7-0.5 ・排泄に時間がかかる子どもをせかしてしまう。2.7-0.3
保育者間	<ul style="list-style-type: none"> ・加配保育士の力は大きい。19.5-4.5 ・加配保育士との話し合いも十分に取れない。14-4 ・話す時間がない。助言の出来る人がいない事多い。12-4 ・他児を見ていると、本児の様子や加配保育士のかかわりが見えない事多い。考え方にも違いがあったりする。21-2 ・加配保育士が4時間勤務の為、午後の保育の難しさ。17-2 ・加配保育士と十分話す時間がなく、目標が曖昧になる。4-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・加配保育士がいない午後は、他児に目が十分届かない。21.75-0.25 ・保育者同士の連携とかかわりのタイミング。5.75-0.25 ・加配保育士がいない午後は遊びが続かない。他児に巻き込まれて泣いていたりする。4.75-0.25 ・思う事が言い辛い保育士もおり連携がとりにくい。4.8-0.2 ・加配保育士がいない午後には個別指導がしにくい。行政に投げかけて欲しい。28-0
保護者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が先回りして、してしまうことが多い。20-5 ・子ども、保護者とも難聴のため、コミュニケーションが難しい。情緒不安定な保護者のケアの仕方。9-5 ・何でもやらせたい保護者が厳しく、ストレス症状。保護者に甘えられない。14-4 ・母親が何を思っているか何を期待しているか、話す時間がない。連携がうまくいってないと思う。20-3 ・加減せずに押しついたり囁んだりするので、被害者側の保護者への対応が難しい。17-3 ・保護者の焦りを感じることもある。対応の難しさ。13-3 ・コミュニケーション。専門機関を勧めるが難しい。6-3 ・ストレートに言えないところもあり対応が難しい。18-2 ・保護者への対応。いい事を言おうとすると大変。12-2 ・信頼関係、コミュニケーションの難しさ。10-2 ・保護者がすぐ健常児と比較する。6-2 ・保護者が教え込む。就学時健診のことばかり気にかけている。障害を認めておらず話がしにくい。14.5-1.5 ・体弱く休みがち。休むと生活習慣がくずれている。20-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間の在園がいいとは思えないということを、どう伝えていくか。10.5-0.5 ・障害を認めたくない保護者への対応。12.75-0.25 ・就学前で保育の仕方に悩む。本児のためになる事をしたいが、保護者の気持ちにそぐわない。4.8-0.2 ・保護者と話し合うが改善されない。対応の難しさ。17-0 ・子どもに対する期待が強い保護者との関係。気持ちの理解。3-0
他児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・かかわりたいと思って活動に差があり入りきれない。他児が違いを感じて仲間に入れない事もあり難しい。7-6 ・遊びを発展させる上で意見が伝え合いにくい。19.5-4.5 ・0才児クラスにいるので、同年齢児とのかかわりも持つ方がいいのか。11.7-3.3 ・友達を求めるが、差が大きくなり離れてしまう。21-3 ・年長クラスにいいことか。18-3 ・他児にとってもプラスになる働きかけ、かかわり方とは。本児の事を伝えすぎると逆効果になってしまうので。8-3 ・クラスへの位置づけ。16.5-2.5 ・他児への本児の位置づけ。21-2 ・他児の本児の足に関する質問への返事に戸惑うことがある。「いつ治る？」が一番困る。18-2 ・自閉症の子とも他児のかかわり遊び。17-2 ・仲間の中で本児をどう位置づけていくか。10-2 ・障害を理解できない他児への行動が乱暴な時がある。9-2 ・叩いたりしてかかわりを持つとするので、他児が恐れたり嫌がる。20-1 ・他児とのかかわりへの援助。4-1 ・他児が違いに気付き始め、遊びを邪魔するので仲間に入れたくないという思いも出てきている。設定保育の中で存在は、と考える。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・他児とのかかわりをどう作るか。10.5-0.5 ・他児が叩いたり、嫌いと言ったりする。1.7-0.5 ・他児の活動を妨げ、落ち着かないことがある。12.75-0.25 ・集団参加。5.75-0.25 ・差が広がりつつあり、他児が違いに気付き始めた。28-0 ・友達とのかかわり。21-0 ・障害のある子どもと他児と一緒に楽しく遊べるように仕向ける。20-0

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
子どもとの関わり等	<ul style="list-style-type: none"> 遊びが広がらない。どういう遊び空間を作ったらいいのか試行錯誤している。14-4 他児が片付けをしている時に玩具を出す。声をかけると怒って叩いたりする。20-5 過度の丁寧さがある。14-4 見守るか手を貸すかのタイミングが分からない。18-3 言葉を引き出そうとすると避ける。17-3 登園までが大変。どうアドバイスしたらいいのか。17-3 ほめる事が少ないので、対応の仕方を考えている。16-3 保育に入れない場合にどんな活動を準備したらいいのか。遊べなくなる時間の過ごし方。12-3 手話など勉強中だが、十分に使えない。16.5-2.5 最近、特に一人遊びにもりたがる。21-2 コミュニケーション。18-2 パニック時の気分の切り替え。18-2 甘えが強くなり、嫌な事は泣いてしようとしめない。13-2 家庭でも運動させて欲しいが余裕がない。外来の見学、保護者に聞く、巡回相談などやっているが、訓練や介助の方法が分からない。13-2 どうしたら昼寝中静かに過ごせるか。12-2 何をするのが本児にとっていいのか、集団にいてどこがプラスか考える。12-2 クラスの中で時間的な差が大きく、どこまでどうかかわるか。12-2 遊びに入れず、外へ出たり退屈したりする時の援助。9-2 遊びの広がりが見られない。6-2 好きな事しかしらないので、どの程度こちらに引き込んでいけばいいのか。14.5-1.5 スプーンにしても持とうとしめない。3.8-1.2 気分できちんとしない日があるが、させるべきか。24-1 設定保育とは別に個別プログラムも考えるべきか。24-1 物の取り合い等が起こった時、他児の方に比重がかかってしまいがち。経験で積み重ねていくものなのか。18-1 他児に頼ってしまう。18-1 本児の意欲を引き出すかわり方を模索している。18-1 気持ちの理解や皆と同じがいいのか等悩む事多い。18-1 生活にけじめをつけたい場面で拒否した時の対応。16-1 食事や水分をとろうとしなかったりする。7-1 他児が集中している時の発声。その時は他の場所につれていったり、手を引いて誘ってみたりしている。6-1 本児に対して何をすればいいのかの見極め。4-1 偏食。どこまで黙らればいいのか、保護者と話し合いながら決めていきたい。4-1 特定の他児への他傷行為。静かな場面で大声を出す。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> 行動を待ってあげ方がいいのか。10.5-0.5 かんしゃくを起こした時に、ハサミなど手に持っている物を投げる。2.6-0.4 思いが通らないと叩いたり玩具を取ったりする事がある。2.7-0.3 禁止しても笑っていて、同じ行動をする。保護者の言葉には反応する。21.75-0.25 移動の介助に手をとられたり、他児の活動に時間がかかる。12.75-0.25 いかに保育者に頼らず、自分でしようという気持ちにさせるか。精神面を支えること。5.75-0.25 ボタンはめの指導。4.75-0.25 思い通りにいかない時の行動。障害のためなのか、それともわがままなのか時々悩む。4.75-0.25 唾を出して、口に戻したり、床にこすりつける。4.8-0.2 何度も迎えに行かないといけない。21-0 嫌がっても最低限の生活習慣を身につけさせていくことの難しさ。17-0 どのように伸ばしていくか。午後もいるようになったら、多動なので、どのような配慮が必要か。16-0 遊んでいるつもりで攻撃し、怒ったり話して聞かせても止まらない。野菜の偏食指導。寝たふりやわざとの排尿などで困っている。0-0
他の悩み	<ul style="list-style-type: none"> すぐパニックを起こしたりする他児への対応。12-3 統合保育の難しさ。10-2 前年度担任した子どもの様子を聞き、学習障害児について詳しく知りたい。18-1 少し遅れているのではないかと思う時、その判断がつきにくいこと。9-1 成長の可能性。言葉は出るか。集団の中で遊べるか。6-1 保母が休んでいる時に丁寧な援助してあげられない。4-1 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる他児に手が届くが、特定の子が世話してくれる。10.5-0.5 障害児と言いたくないが、はみ出す他児への対応。21-0
計	77	34

末尾の数字は、保母経験年数と障害児保育経験年数を示す。

有意差は見られないが ($t=0.35$, $df=43$, $p>0.1$), 保母経験年数と保母経験総年数はどちらも前者が有意に長かった ($t=10.39$, $df=42$, $p<0.01$; $t=4.96$, $df=43$, $p<0.01$)。表3より, 「ふれあい」(8:1), 「言葉かけ」(11:1), 「ほめる」(3:0)などで前者側の記述が多く, 「教育的」(0:2), 「他児との関係」(11:9)では後者の記述が多い傾向が伺われた。

比較のため, 従来通り障害児保育経験1年を基準にして2群に分けた場合の検討も行い, 同経験1年以上の31名から延べ82, 1年未満の14名から延べ36の記述を得た。保母経験年数, 障害児保育経験年数, 保母経験総年数は, 前者が各々5.1, 4.3, 9.4年, 後者が4.9, 0.3, 5.1年であり, 保母経験年数には有意差は見られないが ($t=0.20$, $df=43$, $p>0.1$), 障害児保育経験年数と保母経験総年数はどちらも前者が有意に長かった ($t=8.94$, $df=31$, $p<0.01$; $t=3.79$, $df=43$, $p<0.01$)。分析の結果, 「子どもの気持ち」(7:1), 「ほめる」(3:0), 「自立」(14:0), 「保育」(7:0), 「保育者間」(7:1)などで前者側の記述が多く, 「ふれあい」(4:5), 「言葉かけ」(7:5), 「教育的」(0:2), 「他児との関係」(12:8), 「その他」(12:8)で後者の記述が多い傾向が見られた。

これらの結果から, 保母経験が長く障害児保育経験が短い加配保母の場合には, 「ふれあい」や「言葉かけ」により子どもとの関係作りを重視する傾向があり, 「言葉かけ」に関しては担当保母の配慮点の結果とも一致していると言えよう。また, 両経験共に長い場合には「ほめる」こと, 逆に短い場合には, どちらかと言うと教育的なかわりに留意しており, さらには障害児保育経験が長い加配保母は, 「子どもの気持ち」や「自立」に配慮し, 自分なりの「保育」を志しながらも, 「保育者間」の協力を心がけていることが示唆される。また, 若松・船津(1997b)と異なり, 両経験の長短にかかわらず, 「他児との関係」で子ども同士のかかわりを重視する記述がいくつか認められた。初任の保母に対する研修の効果などが推定されよう。

さらに, 障害児保育経験1年以上だが, 保母経験がない3名について検討したところ, 若松・船津(1997c)と同様に, やはり「保護者」と「保

育者間」での配慮点の指摘はなかったが, 「他児との関係」には1名が言及していた。一方, 「保育者間」で保母経験4.8年, 障害児保育経験0.2年の保母が, 「担任がやりやすいよう準備, 片付けを手早くし…」と記しており, これらは加配保母にとっての保母経験の重要性を示唆するものではないかと考えられる。

以上より, 加配保母にも障害児保育経験が必要であることが示されたが, これは当然の結果であり, 肝心の保母経験の必要性については十分明確にされたと言え難い。この原因としては, 保母経験3年を基準とせざるを得なかった対象者数の少なさが挙げられよう。

4. 加配保母の保育上の悩み

表4は, 加配保母の保育上の悩みについて, やはり担当保母と同じカテゴリーで分類したものである。保母経験3年以上の群から延べ36, 3年未満の群から延べ8の記述が得られたが, 「他児との関係」(6:1)で前者の記述が多い傾向が見られたのみであった。この結果を, 保母経験が長い加配保母は他児にも目が向き, 担当児と他児のかかわりにより深く関与しているため, それだけ悩みも多いと解釈することも出来ようが, これだけでは不十分であろう。一方, 障害児保育経験で分けた場合には, 経験1年以上の群から延べ29, 1年未満の群から延べ15の悩みが出されており, 「保護者」(8:1)で前者の記述が多い傾向が認められた。その内容からも, 前者は保護者とかかわる機会がない, 対応に困っているなど, 積極的に保護者と向き合おうとしている様子が伺われる。また, 「子どもとの関わり等」(14:9)の結果からも, 後者がより多くの悩みを抱えている傾向が推定される。

このように, 保母経験の影響に関しては, 上述の配慮点と比べても, より不明確な結果しか見出し出されておらず, やはり対象者数の不足が最大の要因であると考えられる。

全体的考察

本研究の結果より, 担当保母が障害を持つ子どもや保護者とのコミュニケーションを深めたり, 加配保母と協力したりしていくためには, ある程

表3 平成9年度加配保母の保育上の配慮点

	保母経験3年以上	保母経験3年未満
子どもの気持ち	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから来た時には受け入れる。9-2 落ち着いた後、しっかり訴えを聞く。8.5-3.5 しっかりかかわって心の支えになる。共感出来る事を一緒にしていく。6-2 話しかけてきた時は最後まで聞く。6-2 行動から要求を察し、満たしてやっている。5-2.5 ゆっくり話を聞く。一緒の目線で過ごす。4.8-0.2 言葉聞き取りにくいので、よく考えて返事をする。4-7 	<ul style="list-style-type: none"> 甘えたい時には、しっかり甘えさせる。0-1
観察		
ふれあい	<ul style="list-style-type: none"> スキンシップ。13-0 仲良くなるように。8.8-0.2 信頼関係をしっかり作り、慌てる事なく受け入れる。8-4 現在は一緒に行動することを大切にしている。8-3 スキンシップをしっかりと行う。8-2 信頼関係を作る。6-0 身体接触。6-0 かかわりの時間を大事にする。4.8-0.2 	<ul style="list-style-type: none"> しっかりと会話し、信頼関係を作る。1-2
遊び	<ul style="list-style-type: none"> 共感出来る遊びを選んで誘う。9-6 やりたい事は出来るだけ十分に一緒にやる。4-7 	<ul style="list-style-type: none"> 興味を持った事にじっくり付き合う。2.3-0.7
言葉かけ	<ul style="list-style-type: none"> 登園時、こちらから声をかける。10-5 ゆっくり、はっきり発音。視線を合わせて挨拶。8.8-0.2 目を見てゆっくり語りかける。6-0 大きな声で前から身振りを加えて話しかける。5-8 繰り返して言葉かけ。本児の言葉を補足。5-5 とにかく言葉かけを行っている。5-1.5 思い出して話す事が出来るように「～だったね」等話しかける。4-7 行動する時には、なるべく話しかける。3.8-0.2 分かりにくい事を個別に話す。3.5-7.5 行動の前に必ず言葉かけをする。3-9 意識的な言葉かけ。3-0 	<ul style="list-style-type: none"> 出来るだけ一緒に行動し、大きな声、口でゆっくりと繰り返し話す。2.3-0.7
ほめる	<ul style="list-style-type: none"> 頑張った事はほめる。9-2 出来ている事はしっかり認める。4-7 歌う、色を塗るなど喜んで出来る事を皆の前でしっかりほめる。3-10 	
メリハリ	<ul style="list-style-type: none"> してはいけない事をした時はきちんと話す。6-2 ルールを知らせる時には、繰り返して話す。5-5 やらなければならない時は、時間がかかっても納得させ参加させる。3-9 	<ul style="list-style-type: none"> 何かを教えたり、やってもらいたい時は厳しく、甘えさせない。泣き叫んだりしても、やるまで待つ。1.05-0.25 していい事悪い事をはっきりと伝える。0.8-0.2
笑顔	<ul style="list-style-type: none"> 明るく元気に楽しく接していきたい。6.7-0.3 	
教育的		<ul style="list-style-type: none"> 声を出す機会を増やす。2.3-0.7 選択判断や行動出来るよう言葉かけに配慮。0.8-0.2
自立	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣は待つ姿勢で自立を目指す。10-2 出来る事はするのが当たり前という気持を持つように。7-2 発達年齢でかわるよう心がけているが、甘やかしてしまいう時もあるので、待つ姿勢で接していく。6-4 生活面自分から出来るように。6-2 離れて見守る。5-8 「近からず遠からず」を心がけている。5-6 考えて行動出来るように、なるべく待つ。5-5 出来る事はする気になるような言葉かけや援助。5-2.5 出来る事は手を出さず、ゆっくりと行う。5-1.5 装具着脱など、自分で出来る事は自分で。3-10 生活習慣手伝わないように。3-2 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の事は出来るだけ自分でする。2-8 自分の事は自分でする。1-2 自分で出来る事は自分で。0-5

広島市における統合保育の実態調査(4)

	保母経験3年以上	保母経験3年未満
保育	<ul style="list-style-type: none"> ・他児と遊ぶ、個別にかかるとメリハリをつける。10-2 ・週1回、2才児クラスに入れる。8-6 ・好きな物を見る、仕事を頼むなど園生活に慣れる。8-6 ・目標は持つが無理のない保育。7-2 ・参加出来るところまで励まし、達成感が味わえるように。3.5-7.5 ・自由遊び等ではしっかり自由に遊ばせ、集団遊びには出来るだけ参加させる。3-9 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作など保母の制作にならないように援助する。0-5
他児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んで、他児と遊べるようにしている。10-5 ・かかわりの中で楽しく遊ぶ機会を増したい。媒介として暖かい交流方法を示し、安心感を持てるよう接する。9-2 ・保育者を通して他児に無理なくかかわらせる。8-4 ・他児とコミュニケーションがとれる機会を作る。7-2 ・一緒に他児に声をかける。他児とのパイプ役に。6.7-0.3 ・障害に見えず、わがままに映る。気持ちが伝わらない等で他児イライラ。どう理解させるか担任と話している。5-6 ・他児とかかわるきっかけを作る。5-6 ・一緒に「いや」等他児に言う。4-7 ・外遊びでは、なるべく他児ともかかわるように。3.8-0.2 ・意思表示が分かりにくい時には仲介役になる。3.5-7.5 ・本児のしたい事を優先したいが、他児とのかかわり、同じ経験をする事も大事にしたい。3.5-0.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・他児とのかかわりを見守る。2.3-0.7 ・他児が本児を「～できる」等認めてくれた事をほめる。本児の頑張りを伝える。2.3-0.7 ・他児とのふれあいを持ちながら経験を豊かに。2-8 ・他児と楽しくかかわり合いが持てれば。2-4 ・子どもベッタリにならないようにして、子ども同士のかかわりを重視していきたい。1.05-0.25 ・遊びの仲間に入れるように援助する。0.8-0.2 ・他児と同時に遊びに参加出来るような時間配分と介助の方法に配慮する。0.8-0.2 ・出来るだけ子ども同士のかかわりが持てるように、少し離れて見守る。0-1 ・他児とかかわりが出来る遊びを増やす。他児を誘う場面を作るよう声かけをする。0-1
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との話し合い。13-0 ・保護者が就学を気にして、いろいろ取り組んでいるが、園では十分に楽しむ事に視点を置く。保護者と毎朝コミュニケーション。9-6 ・家庭から本児のその日の調子を知る。7-2 ・連絡ノートに園での様子を記す。4-7 ・保護者との会話を必ず持つ。3-10 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と話す事少ないが、担任にしっかり様子を伝える事でカバー可能。2.3-0.7
保育者間	<ul style="list-style-type: none"> ・安定している時は活動に入れるよう担任と十分話し合っている。8.5-3.5 ・手のかかる、かかわり求める他児多いので、補助的役割を果たす。8.5-3.5 ・担任と毎日本児について反省している。8-6 ・他の保育者と相談しながら、その子どもに応じた援助をしていく。8-2 ・担任がやりやすいよう準備、片付けを手早くし、子ども達にも居心地のいい場所作りを。4.8-0.2 ・危険行為は担任と一致して対処する。3.5-7.5 ・担任の言う事はよく聞くので助言してもらっている。3-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学を控え、心がけるべき事について担任と話し合っている。1-2
園		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着ける乳児の部屋に時々行く。9-6 ・今ついている子どもと本児が仲良く遊べるように。9-2 ・危険が分かっているないので遊びを見守る。8.8-0.2 ・目を離さない。8.5-3.5 ・無理をしていないか気をつける。8.4-0.6 ・物なくても落ち着けるようにしたい。危険な事を教える。本への興味持たせたい。6.7-0.3 ・自閉症初めてで前任者からアドバイスを受けている。6-0 ・手のかかる他児がいて、そちらも気にかかる。6-0 ・園が楽しいと思えるように。3.5-7.5 ・絵に人物出なくても問題ないのか。家族関係に問題があるためか。自画像も線画で、待っていていいのか。5-5 ・今は本児を分かろうとしている状態。5-0 ・出来るだけ手話や身振りで交流する。4.8-0.2 ・園に慣れるため、したい事行きたい所へ。3.8-0.2 ・園生活が楽しいと思えるように。3.5-7.5 ・いけない事等、1つ1つ丁寧に伝わっていく。3.5-7.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長に言われたように、我が子だと思ってかかわる。2-3 ・家庭での生活が見えるように。1-2 ・激しい運動、散歩などは見守る。0-5 ・本児、他児に平等にかかわれるように。0-5 ・身だしなみを整える。0-1
計	90	28

末尾の数字は、保母経験年数-障害児保育経験年数を示す。

表4 平成9年度加配保母の保育上の悩み

	保母経験3年以上	保母経験3年未満
保育のゆとり	・雑用も結構多く、家に持ち帰る時もある。3.8-0.2	
保育者間	・時間調整のため、自由遊びに付き合えないので、担任にもっとやって欲しい。相談していきたい。研修、話し合いの場が欲しい。9-2 ・かかわり方について担任と相違が生じる。特に、身体的に無理があるかどうか言葉での訴えのとらえ方。8.4-0.6	
保護者との関係	・園外での学習が負担にならないか、必要なか心配。保護者とかかわる時間がないので、とても困る。10-2 ・対応難しい。もう少し余裕を持って見守って欲しい。8-6 ・より障害重い児がいる為、期待大きく、要求が多い。8-4 ・家で手をかけ過ぎで休み明けは生活リズムが乱れる。話しても長続きしない。6-4 ・要望をどう受けていけばいいのか悩む事がある。6-2 ・普通学級希望だが、参観して本児の様子に動揺した保護者への対応。5-8 ・以前の事故が心配で、保護者が離れない。5-2	・保護者の思いや希望を知る機会がない。2-3 ・入院多く、保護者の仕事が不規則で、家庭が安らぎの場になっているのか心配。0.9-0.4
他児との関係	・他児の行動にどうかかわらせていけばいいのか。13-0 ・食べ方汚く、文句言う他児いる。全体へ影響しないか心配。8.8-0.2 ・他児に嫌われ、けんかになる事も多い。両方の気持ちが分かり、対応に少し迷いがある。統合保育の難しさを痛感する。8.5-3.5 ・他児がだんだん違う目で見えるようになってきた。8-4 ・他児へのかかわり、集団の中での障害を持つ子どものあり方、難しい。8-2 ・言葉や理解の遅れ、思い通らないと泣く等からトラブルが起き、最近本児へのいじわるが時々見られる。5-6	・本児に付き合うことにより、他児の反応が様々なこと。嫉妬、ストレスなどから本児につらくあたる場面も多いが、他児の環境、気持ちを思うと、うまく対応できない。2.3-0.7
子どもとの関わり等	・偏食がひどく、園では御飯しか食べないので、担任、保護者と話し合っている。10-5 ・いつも手を口に入れてるので、ふやけて爪がとれたりする。手指の使用も困難。家では止めているが、他の行動が出るかも知れず、園では止めていない。8.8-0.2 ・暴力での抵抗、大変。強いこだわりへの対応。一貫して対処するようにしているが、難しい。8.5-3.5 ・動く活動の時、離れているか側にいるか迷う。8.4-0.6 ・毎日のように叩く、つねるがあり、あざだらけになる。禁止したり、午睡前になると始まる。8-6 ・一対一の時どんな遊びを取り入れたらいいのか。8-3 ・初めての事に戸惑い、パニックになりやすい。6.7-0.3 ・達成目標をどの程度においたらいいのか試行錯誤の毎日だが、焦らないでいたい。6-0 ・興味が続かない時声をかけるが、他児もいるので、その時どこまで接するか。5-8 ・これからのかかわり方を専門家に指導して欲しい。5-2.5 ・冬期体温高く、寒がって手を洗えない。体温高い事への対応の仕方。言葉が少ないので、言葉かけの仕方。5-1.5 ・どこまで遊びを見守るのか、かかわるのか。4.8-0.2 ・給食など、集団の中に連れていく際の言葉かけ。3.8-0.2 ・今本人にとって嫌な事はしない方がいいのか。3.5-0.5 ・好きなサッカーで差が開き、室内遊びが増えた。3-10 ・パニックになると気持ちの切り替えに時間がかかる。3-9 ・どうかかわればプラスになるのか。3-2 ・毎日の進歩が少ないので、接する時の心構え。3-0	・時間がかかり、他児との行動が難しい。2-8 ・他の保母との休みの関係と本児も休みがちで、本児との交流が不十分。0.9-0.4 ・気持ちの集中がないので、つい手伝ってしまう。嫌な時など他傷で訴える。0-6 ・クラス全体に向けての話が聞けない。0-1 ・相手に対する力加減が理解出来ていない。相手の気持など細かい意味を伝える難しさに悩む。2-4
他の悩み	・配慮のいる他児に手がかかり、見守っていて時々言葉をかけに行く日が多い。7-2 ・子ども達に動植物などの命の大切さを教えたい。5-2	
計	36	8

末尾の数字は、保母経験年数と障害児保育経験年数を示す。

度の障害児保育経験が必要なことが明らかに示された。障害児保育経験の違いによって分けられた担当保母の集団において、保母経験年数には有意な差がなかったために、これまでの筆者らの研究と比較して、この結果をより確実に示すことが出来たと考えられる。しかしながら、統計的な差は見られなかったとは言え、障害児保育経験が長い担当保母の集団の方が保母経験もやや長いこと、これまでの研究にも当てはまるが、保育体制や子ども側の条件等が考慮されていないこと、そして平均10年以上の保母経験自体が結果に及ぼす影響などについては、今後の検討課題として残されていると言えよう。

次に、保母経験と障害児保育経験双方の重要性が推測されていた加配保母に関しても、障害児保育経験が長い加配保母は、子どもの気持ちや生活の自立に配慮し、自分なりの保育を志しながらも、保育者間の協力を心がけていることが明らかに示された。担当保母の場合と同様、障害児保育経験の長さが異なる加配保母の集団において、保母経験年数には有意差が見られなかったために、この結果は障害児保育経験の違いによるものであると考えられる。しかしながら、前述したように、これは極めて常識的な結果であるかも知れない。とは言え、「加配保母も2年程は他の保育者との関係などで悩む時期」(若松・船津, 1997a)があると考えられ、保護者に対する「もう少し余裕を持って見守って欲しい。」(表4)という悩みと同様に、初任の加配保母自身に対する周囲の見方の重要性を改めて示したという点では、何らかの意味

があるとも解釈可能であろう。一方、保母経験の要因については、本研究においても部分的な示唆に止まり、十分明らかにすることが出来なかった。便宜的に保母経験3年を基準とせざるを得なかった対象者数の少なさは既に指摘したが、保母からの疑問や悩みに積極的に応じていくことで、記述される内容の増加を図る試みなども必要であろう。今後は、加配保母に重点を置いた従来の分析を続けていくと同時に、こうした対応によって調査結果を保育現場に還元していく中での事例的検討なども考えていきたい。

文 献

- 若松昭彦 1995 広島市における統合保育の実態調査(1)―保育上の困難点や対応方法を中心として―. 学校教育実践学研究, 1, 217-225.
- 若松昭彦・船津守久 1997a 広島市における統合保育の実態調査(2)―担任及び加配保母を対象として―. 広島大学学校教育学部紀要第I部, 19, 99-107.
- 若松昭彦・船津守久 1997b 広島市における統合保育の実態調査(3)―平成8年度の調査結果について―. 学校教育実践学研究, 3, 155-165.
- 若松昭彦・船津守久 1997c 保育所における障害児保育の実態調査(2)―障害児保育経験の要因について―. 日本特殊教育学会第35回大会発表論文集, 620-621.